

昭和57年度花壇管理状況

竹 下 宏

昭和57年度は、大、小花壇及び大温室横花壇で年5回、その他の花壇では4～6回の植え替えを行い、29種類約68,400株の草花を植え付けた。

概要及び所感

1)模様については大花壇は菱形を基本とした模様、小花壇は例年どおりの円形を用いた。

2)植物については、昨年とはほぼ同じ種類を用いたが、第5回植え替えでは、小花壇と展示資料館事務所前花壇に、初めてビオラ・キューティーを用いた。事務所前花壇は西側を向き、午後からはよく日が当たり、建物によって北風が防げ、軒が出ていることから冬場でも順調に生育した。これに対し、小花壇では、寒さや霜の害で回復が難しい状態となり、2月下旬に、パンジーに植え替えることとなった。一方、大温室横花壇で使用したビオラ・ゴールデンカーペットは、

寒さによるいたみも少く、3月以降の生育も順調であった。また、フラワーポットに植込んだビオラについても、ゴールデンカーペットの方が寒さに対する抵抗性が強かった。

3)病虫害については、まず、キンギョソウで、6月に入り、疫病とみられる病気が発生し、地際が犯され、しおれてやがて立枯状になって枯れる株が幾らかみられた。マンネブダイセンの散布により、進行はある程度止ったものの、かなりの株で被害を受けた。ニチニチソウについては、葉や花がよじれたり小さくなったりするモザイク病と思われる株が一部にみられた。また、9月に入ってから比較的雨が多くなり、過湿の状態が続いたため、大花壇のマリーゴールドで立枯病と黒点病の発生が著しく、マンネブダイセン水和剤、ベンレート散布を行ったが、回復までには至らず、10月7日にはマリーゴールドの全面的な植え替えを行った。マリーゴールドの場合、特に立枯病は深刻であり、長雨が続くような時には、予防効果を期待した薬剤散布がぜひ必要である。

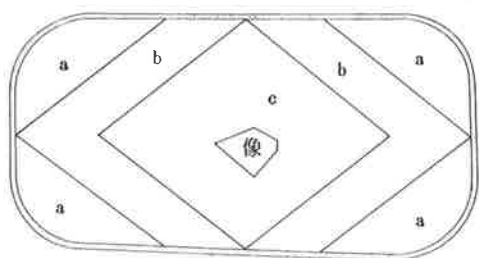


図. 1

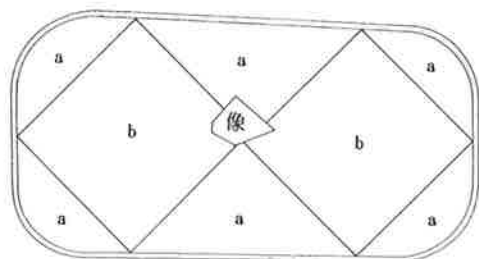


図. 2

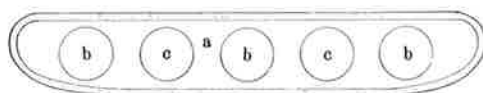


図. 3



大花壇

